

校長室より

第10号

「天空高き」



平成22年10月29日

若鷹祭に向けて

各学年、各クラスそして有志の皆さん、若鷹祭にむけて練習に余念がないと思います。

今年のテーマは、「We can do it!」。どんな若鷹祭になるのか今から楽しみです。

午前中に行われる音楽祭は、各学年各クラスによる合奏と合唱ですね。私は中学生当時音楽は大好きでした。上手下手は別にして大きな声で歌うことが気持ちよく、音楽の時間は楽しみでした。しかし、楽器を演奏するのは苦手で、レコーダーしかできませんでした。皆さんがピアノ、バイオリン、ギター、三味線や琴を演奏しているのをみると羨ましく思えます。

音楽というのは広辞苑によると「音による芸術。拍子・節・音色・和声などに基づき種々の形式に組み立てられた曲を奏するもの。器楽と声楽がある。」とあります。音による芸術（アート）によって我々や保護者の方に感動を与えてください。そのためには、一人ひとりがクラス（みんな）のために一生懸命になれる自分（一人）になっていくこと。皆は一人の為に、何ができますか？20人学級の場合、20人みんなが集まって1つのクラスです。クラスには、音楽の得意な人もいれば、そうでない人もいることでしょう。美しいメロディを出すためには、ひとり一人の役割が適材適所である事が大切です。一人ひとりの立場をみんなが理解し合って、色々な角度から冷静に判断していくことも大切です。クラス（みんな）で一つの目標に向かって協力していきける自分（一人）になっていくことが大切になります。すなわち、「One for all All for one」「一人は皆の為に、皆は一人の為に」ですね。

皆さんの合奏と合唱を期待し、楽しみにしています。「We can do it!」



中六講演会を終えて

高岡滋先生（昭和54卒）の講演は、水俣病についての基本的な情報を紹介し、何故いまだに新たな水俣病患者が見いだされているのかについて、医学的、社会的、心理的要因を明らかにされました。そして、本来あるべき環境行政と医療・医学の姿について示されました。と同時に、環境や経済など、深刻な問題に直面している私たちの将来に対して、私たち自身がどのような態度で臨んでいくべきなのか、用意周到の準備をされて熱く語られました。

高岡先生は、国の内外のこうした化学物質をめぐる問題に対して、水俣病のような失敗を繰り返さないように対処法を挙げられました。過去の経験、特にとるべき対策をとらなかった結果として多くの犠牲を強いてしまった歴史、あるいは、つまずきを乗り越えてきた努力の歴史を学び、その苦い経験を教訓として活かしていかなければならないということでした。

最後に生徒（S1-2）の感想文を紹介します。

話を聞いて自分には関わりのない話だと思っていたが、今回の講演を聴いて大分身近に感じる事ができた。チッソが原因と判明してからもチッソが生産を中止しなかった対応が適切でなかったと思う。チッソが今でもちゃんと責任をとり水俣病患者の人生をしっかりとサポートしていく責任があると思う。そんな中で、大人になっても水俣病と闘い続ける高岡さんの精神は素晴らしいものだった。水俣病を過去の出来事だと考えずに今現在の重大な問題だと捉えて自分たちも臨んでいきたい。今回の講演は自分自身に対する態度や気持ちを考え直せるものだった。

先輩の体験を踏まえた貴重なお話有り難かったですね。

高水高等学校附属中学校

校長 前田 茂雄

今回の一言 夢を持ち続ける者は学ぶことを怠らない

